

丸ノ内線の建設 第1期工事 池袋～御茶ノ水間



池袋～御茶ノ水間は、茗荷谷～本郷三丁目間に1.8キロの地上区間があります。地下鉄の建設はコスト削減のため、トンネルをできるだけ浅い位置に通すよう計画されました。茗荷谷～本郷三丁目間は、後楽園駅付近の低地部とその前後で急激な高低差があるため、後楽園駅付近の低地部を地上区間とし、台地部のトンネルの深さを浅くしました。また、茗荷谷では、地上部であることを生かして、地上車庫が設けられました。

コラム

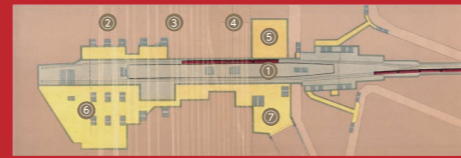
工事中の出土品

丸ノ内線の建設工事では、工事の際に、昔使われていた土器などが発掘されました。1952(昭和27)年8月、御茶ノ水付近の工事で貝塚が発掘された際は、博物館、東大、医科歯科大等の学者により詳細な調査が行われました。その結果、石器時代前期および後期には、旧東京湾をのぞむ台地だった地域に人々が暮らしていたことを表す、貴重な証拠ということがわかりました。



御茶ノ水付近の貝塚で発掘された発掘物

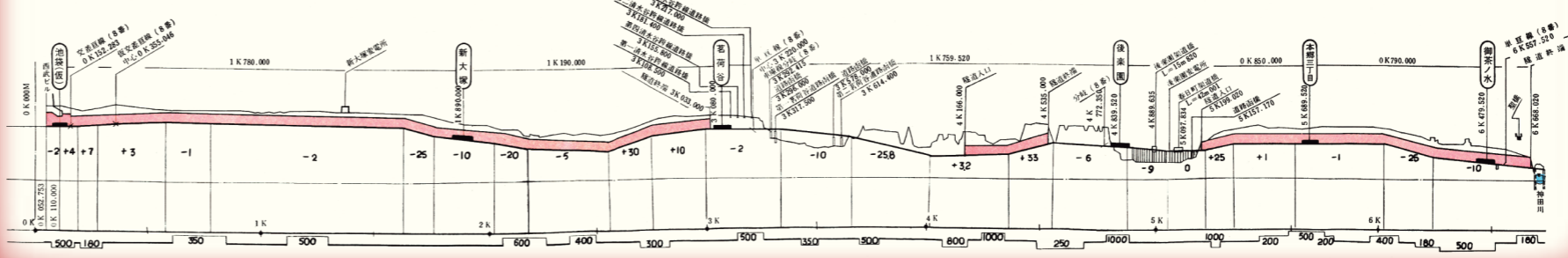
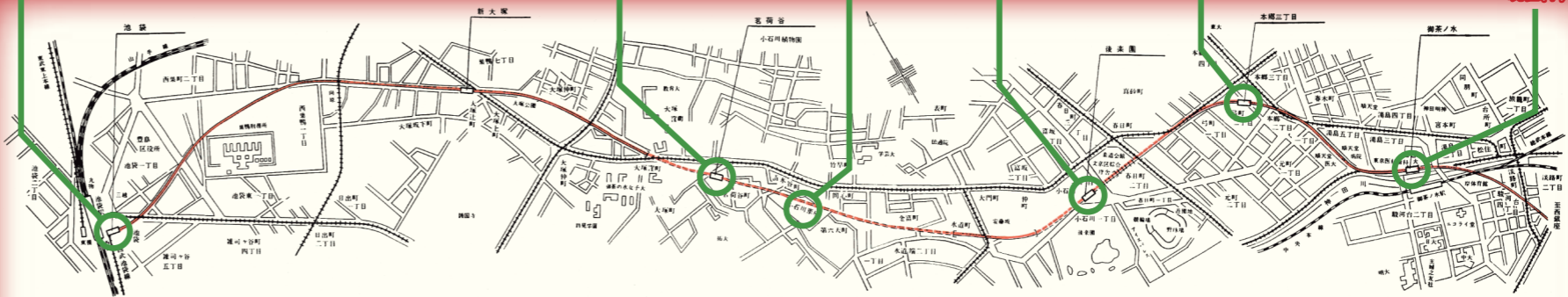
年月	場所	発掘物
1952(昭和27)年7月	本郷三丁目交差点付近	江戸時代に水道管として使われていた木樋
1952(昭和27)年8月	御茶ノ水駅医科歯科大寄り出入口西側付近	貝塚、石器の破片等
1954(昭和29)年夏頃～秋	神田淡路町一丁目、司町等	江戸時代に水道管として使われていた木樋
1954(昭和29)年12月	朝日生命ビル前および東京駅前付近	室町時代の人骨
1956(昭和31)年4月	鎌倉橋付近の外濠川横断工事	江戸時代の護岸石垣等
1956(昭和31)年5月	神田司町、鎌倉町付近	徳利、茶碗等江戸時代の什器類
1956(昭和31)年11月	数寄屋橋公園付近	江戸時代の数寄屋橋門の護岸石垣



- ① 地下鉄池袋駅ホーム
- ② 東上線
- ③ 国鉄線
- ④ 西武線
- ⑤ 西武百貨店
- ⑥ 東武文化会館
- ⑦ 中二階部



駅・施設



建設



後楽園駅付近